

水 稻 新 品 種「コ ガ ネ マ サ リ」に つ い て

内山田博士・西山 寿・橋高昭雄・新村善弘・森 篤
 衛藤信男・上野貞一・黒木雄幸・向井 康
 (宮崎県総合農業試験場)

UCHIYAMADA, H., NISHIYAMA, H., KITSUTAKA, A.,
 SHINMURA, Y., TODOROKI, A., ETO, N.,
 UENO, S., KUROKI, Y. and MUKAI, Y.
 A New Rice Cultivar "KOGANEMASARI".

水稻南海59号は、昭和51年から宮崎、鹿児島、香川の各県において奨励品種に採用され、通称名を「コガネマサリ」として普及に移されることになったので、育成経過と特性概要をのべて参考に供したい。

来歴ならびに育成経過

コガネマサリは昭和42年宮崎県総合農業試験場において、日本晴を母、黄金錦を父として人工交配を行ない、同年にF₁を養成した。44年F₃は穂別系統として個体を選抜し、45年F₄は現地(高千穂町)において系統選抜を行ない、以降系統育種法により育成したものである。昭和48年から南海59号の系統名で関係県に配布し、地方的適否を確かめてきたもので、昭和51年F₁₀で水稻農林242号として登録、通称名を「コガネマサリ」と命名された。

特 性 の 概 要

1. 形態的特性 黄金錦に比べると程長は約10cm短かく、穂長は僅かに長く、穂数はやや多い中稈偏穂重型の粳種である。程の太さおよび剛さは黄金錦並で、止葉はやや立ち、熟色は良い。ふ先色は白、ふ色は黄白である。短芒があり、脱粒性は難、粒着密度は中位である。玄米は中形、中の小粒で、心白、腹白はごく少なく光沢すぐれ、品質、検査等級は黄金錦にまさる。食味は黄金錦並で良好である。

2. 生態的特性 出穂期および成熟期は黄金錦程度ないし1~2日早く、育成地では早生の晩に属する。耐倒伏性は黄金錦にまさる。生産力は黄金錦にまさり早生としては多収である。

葉いもち病にはやや弱いが、穂いもち病には黄金錦並でやや強い。白葉枯病に対しては抵抗性遺伝子を持たないのでI、II群菌に罹病するが黄金錦にまさる。イネわい化病にはレイホウ、ミナミニシキにまさりやや強である。

第 1 表 一般特性 (宮崎県総合農試)

品種名		コガネマサリ	黄金錦	日本晴
形質				
出穂期 (月日)		8.24	8.25	8.18
程 長 (cm)		90	99	82
穂 長 (cm)		20.8	20.3	19.8
穂 数 (本/m ²)		286	279	320
芒の有無・長短		少・短	少・短	稀・短
脱 粒 性		難	難	難
抵 抗 性	倒 伏	やや強	中	やや強
	葉いもち病	やや弱	中	やや弱
	穂いもち病	やや強	やや強	中
	白葉枯病	中	弱	中
玄米重(kg/a)	50.6	47.0	47.8	
玄米千粒重(g)	21.9	22.1	22.2	
玄米品質	上下	上下	中上	
検査等級	3等上	3等中	3等下	

注) 調査年次は昭47~50年の4ヵ年の成績

適地および奨励品種採用県

九州・四国地方の黄金錦の栽培限界以下の中山間山麓地を中心に広く適応するものと思われる。宮崎、鹿児島両県は主に黄金錦を対象にそれぞれ3,000ha、5,000ha、香川県では主に東山38号を対象に5,000haの普及が見込まれている。

栽培上の注意

極端な多肥栽培をさけ倒伏に注意する。白葉枯病耐病性は黄金錦に優るが中程度であるので注意が必要であるとともに、葉いもち病にやや弱いので適期防除につとめる。

命名の由来

対象品種の黄金錦よりも諸特性がすぐれていることを表わす(黄金優)。